国立国語研究所学術情報リポジトリ

調査の概要

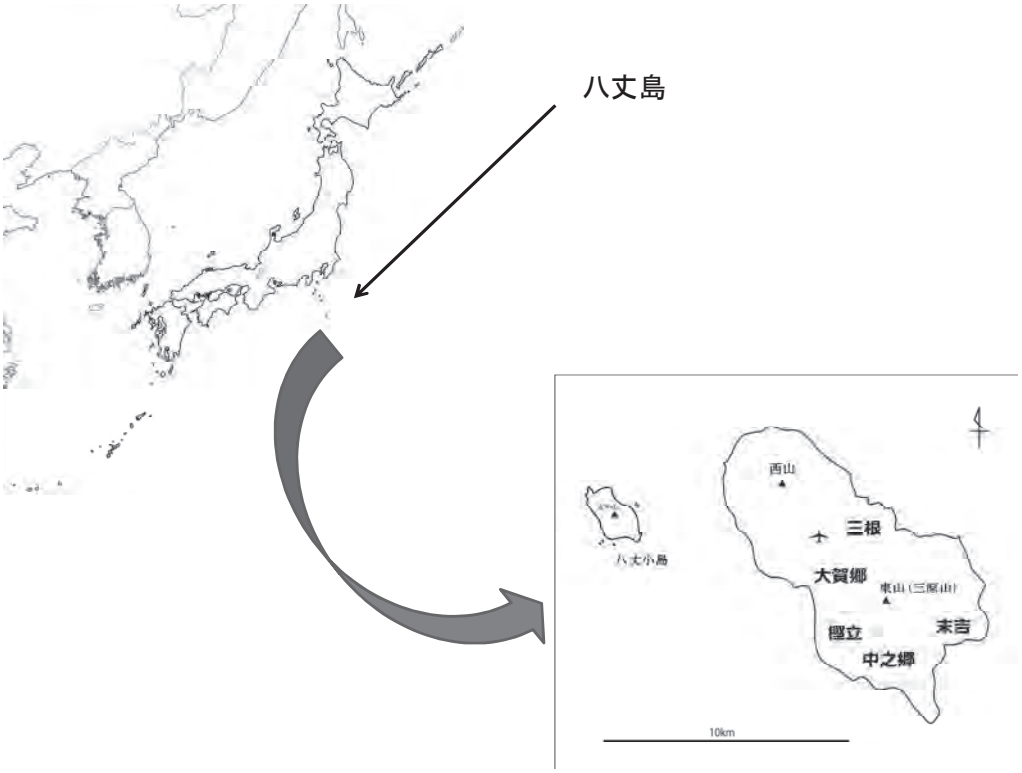
メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002403

調査の概要

１　八丈島の概要

八丈島は，東京の南方海上287キロメートルに位置し，面積69.52平方キロメートルのひょうたん型をした島である。富士火山帯に属する火山島であり，南東部に三原山（標高700.9メートル）と北西部に八丈富士（標高854.3メートル）の２つの山がそびえている。

人口は 8,231人（平成22年現在），主な産業は農業（花，観葉植物栽培，焼酎，くさや加工），沿岸漁業，伝統的工芸品の黄八丈織，観光業などである。（八丈町ホームページ　http://www.town.hachijo.tokyo.jp/gaiyo/gaiyou.html（2010年10月1日）を参照した）。



２　調査の概要

２．１　調査日程，調査地点，調査内容，調査担当者

調査は2013年9月6日～9月8日に行った。調査地点と調査内容，調査担当者は以下のとおりである。

日時	地区名	調査内容	調査担当者
9月6日（木）午前	末吉	基礎語彙 a	上野，大槻，町，仲原
		基礎語彙 b	ローレンス，久保薗，松浦，川瀬，
		文法（前半）	金田，平子，ペラール，山田
		文法（後半）	狩俣，下地，徳永，中澤
午後	中之郷	基礎語彙 a	上野，大槻，仲原，町
		基礎語彙 b	川瀬，久保薗，松浦，ローレンス
		文法（前半）	金田，平子，ペラール，山田
		文法（後半）	狩俣，徳永，下地，中澤
9月7日（金）午前	三根	基礎語彙 a	川瀬，平子，松浦，ローレンス
		基礎語彙 b	中澤，ペラール，町，小川
		文法（前半）	大槻，金田，狩俣，　徳永
		文法（後半）	久保薗，下地，仲原，山田，金田，大槻
午後	大賀郷	基礎語彙 a	川瀬，平子，ローレンス，ペラール
		基礎語彙 b	中澤，町，松浦，小川
		文法（前半）	大槻，金田，狩俣，　徳永
		文法（後半）	久保薗，下地，仲原，山田，金田，大槻
9月8日（土）午前	樫立	基礎語彙 a	大槻，木部，松浦，ローレンス
		基礎語彙 b	仲原，中澤，平子，小川
		文法（前半）	久保薗，町，川瀬，ペラール，金田
		文法（後半）	狩俣，徳永，金田

２．２　調査者

共同研究員：上野善道（国立国語研究所客員教授），金田章宏（千葉大学），狩俣繁久（琉球大学），川瀬卓（弘前大学），下地賀代子（沖縄国際大学），Thomas Pellard （フランス国立科学研究所），仲原穣（琉球大学非常勤講師），町博光（広島大学大学院），松浦年男（北星学園大学），Wayne Lawrence（Auckland大学）

日本学術振興会PD，大学院生：大槻知世（東京大学大学院生），久保薗愛（九州大学大学院生），中澤光平（東京大学大学院生），平子達也（京都大学大学院生），山田真寛（京都大学・日本学術振興会PD）

スタッフ：木部暢子（代表，国立国語研究所），小川晋史（国立国語研究所プロジェクト PD），盛思超（同非常勤研究員），徳永晶子（同非常勤研究員）

２．３　話者

話者は以下の方々である（敬称略）。

末吉	浅沼幸光，浅沼道一，沖山國子，沖山慶孝，沖山尚昭，沖山東一，沖山みと子，菊池すま子，玉置邦光
中之郷	大澤ちづ子，大野鏡子，金田哲哉，川上清福，菊池吉扶，小坂武宏，福田栄子，山下芙美子
三根	大澤幸一，大沢孝子，沖山彰，沖山操，奥山ヱキ子，金川津屋子，川上絢子，喜田孝，佐々木逸郎，持丸のり子，吉森豊美
大賀郷	新井功明，奥山明和，奥山和則，奥山日出和，河野洋一，菊池國仁，菊池幸子，菊池寛，菊池百合子
樫立	伊勢崎富治，磯崎巧，佐々木豊茂，笹本和邦，笹本久美代，菅原安世，矢田美津，山下保孝

謝辞

お忙しい中，調査に協力してくださった話者の方々に深く感謝申し上げます。また，教育委員会関係者の方々にも大変，お世話になりました。特に，教育長の佐藤 誠氏，教育課課長の福田高峰氏，教育課生涯学習係係長の菊池 良治氏，教育委員の茂手木清氏，林薫氏には，準備段階からお世話になりました。深く感謝申し上げます。

３　60年前の八丈島の言語調査

国立国語研究所は，今から約60年前の1949（昭和24）年に八丈島の言語調査を実施している。国立国語研究所が創設されたのが1948（昭和23）年だから，八丈島の調査は，研究所が最初に行った地域言語の調査ということになる。当時，日本語の研究は日本語史の研究が主流で，現代日本語を対象とした研究はあまり行われていなかった。そのような中，国立国語研究所は，その時々の生きた日本語の実態を科学的に解明することを目的の一つと掲げ，その実現のために，チームを組んで調査研究を行う共同研究体制をしいた。

では，なぜ，最初の調査地点として八丈島が選ばれたのだろうか。調査報告書『八丈方言の言語調査』(1950) には，次の４点があげられている。

（ⅰ）八丈島は，この調査のおもな目的――共通語を話す度合を決定する要因を調べること――を達するのに適した地点であると考えられる。つまり，八丈島は社会的条件が比較的単純であり，その上、島だけで独立の生活体をなしているので，この種の調査をはじめておこなうのにはきわめて扱いやすい地点であると考えられる。
（ⅱ）八丈島固有の言語は，共通語とかなり違った言語であるから，共通語を話す度合を見ることは比較的たやすいと考えられる。
（ⅲ）八丈島固有の言語は，従来の報告によると，かなり特殊な構造をもち，その系統もまだ不明として残されている。
（ⅳ）八丈島の言語については，幸に，江戸時代からの報告が比較的多いので，八丈島の言語を歴史的に研究することも不可能ではない。　（『八丈方言の言語調査』3頁）

次に，この時の調査の概要を簡単に紹介しておこう。詳細については，国立国語研究所(1950)『八丈方言の言語調査』（http://db3.ninjal.ac.jp/publication_db/item.php?id=100170001 でPDFを公開している）を参照されたい。

調査の日程

1949年6月28日（火）17時，月島から八丈島へ船で向かう。
6月29日（水）13時，大賀郷村八重根港に上陸。支庁，警察署，大賀郷役場へ挨拶。
6月30日（木）５カ村の役場を訪問。調査の打合せ。
7月 1日（金）大賀郷の調査実施。
7月 2日（土）三根の調査実施。
7月 3日（日）樫立，中之郷の調査実施。
7月 4日（月）中之郷，末吉の調査実施。
7月 5日（火）大賀郷，三根の調査実施。
7月 6日（水）「円翁交語」「音韻取調書」「口語取調書」を借用し，筆写する。
7月 7日（木）～7月10日（日）３グループ（大賀郷三根グループ，中之郷樫立グループ，末吉グループ）に分かれて調査。
7月11日（月）支庁，警察署，大賀郷役場，南海タイムス，富士中学校，大賀郷小学校へ挨拶廻り。18時，八重根港から出港。
7月12日（火）6時，月島上陸。

調査項目

a) 共通語を話す度合に影響を及ぼすと考えられる，個人の社会環境
b) 同じく，個人の行き来の状況
c) 他村の言語と共通語とに対する態度および意見
d) ある場面において共通語を使うか非共通語を使うか
e) 言語構造的特徴について，共通語で反応するか非共通語で反応するか，ならびに５か村の言語はいかに違うか
f) 外来者との初対面の際に話す共通語の，調査者による判定

言語調査

◇ハシ（橋）とハシ（箸）の区別，◇大根（灰，大工），◇来年，◇俵，◇かわら，◇あわもち，◇てぬぐい（すいか），◇草履（ざる），◇うぐいす，◇先生，◇ろうそく，◇かえる，◇数字の数え方，◇苗植え，◇ていねい（命令，衛生），◇こごえる，◇しかる，◇歩く（歩かない），◇仲間にしてくれ（仲間にする（入れる）），◇くも（虫），◇額，◇末っ子，◇西南風，◇そてつ，◇死んだ（人）（遊んだ（時）），◇急いで（来た），◇遠いか，◇（もし）行くなら，◇（さあ）行こう（勧誘），◇（山の）上に（ある）（場所），◇（山の）上へ（行った）（方向），◇赤いけれど，◇下駄を（はく），◇ここへ（来い）

調査参加者

大間知篤（班長，国立国語研究所職員），柴田武（国立国語研究所職員），飯豊毅一（同），北村甫（同），石川咲子（同），島崎稔（同），山之内るり（同），青木千代吉（長野県派遣研究生），丸山文行（統計数理研究所職員）